

ササユリ保護回復事業計画の評価検証結果について（概要）

1 ササユリについて

- ・ササユリは山地の林野や草原に生えるユリ科の多年生草本で、日本の固有種。県内においては北部・中部・南部に広く分布するが、園芸目的の採取や自生地其自然遷移による減少が危惧されている。
- ・『長野県版レッドリスト（植物編）2014』で準絶滅危惧種。指定希少野生動植物。
- ・保護回復事業計画策定年度：平成22年度（2010年度）

2 計画の目標・取組事項

(1) 計画の目標

生育地や個体群を現状以上に減少させないことを目標とする。そのために、様々な主体が連携して保護対策を推進できるように、保護活動団体のネットワーク化を図る。

(2) 取組事項

①生育環境整備の推進、②監視活動及び普及啓発活動の推進、③情報収集とモニタリング、④管理手法の作成、⑤保護活動団体のネットワーク化、⑥地域住民による保全体制の確立

3 計画策定以降の対象種の動向

指 標				動向
①株数の増減	増えた 4箇所	同程度で維持 3箇所	減った 8箇所	↓
②管理の活発さ	活発になった 2箇所	同程度で維持 10箇所	衰退した 3箇所	→
③活動の開始、停止	開始 1か所		停止 2か所	↘
補 足 事 項	・県内各地の生育地で保護活動が行われているが、そのうち16カ所の代表的な1名にアンケートを送付。回答のあった15カ所の回答を集計して①及び②の指標とした。 ・①は「平成22年頃と比べて、近年の株数は増減していますか。」の問いに対する回答。多くの生息地では株数（開花個体数）を記録していないため、単に増えたか減ったか等を尋ねている。 ・②は「平成22年頃と比べて、頻度や人数の面で、活動内容に変化はありましたか。」の問いに対する回答。 ・③の「停止」とは、平成22年時点では管理されていたものの、評価時点には活動者が不在となった生育地。（関係者へのアンケートや聞き取り等により把握できた事例のみ。）			

4 成果

- 現地での取組にも関わらず個体数が減少している箇所が多く、活動が停止した箇所もある。
- 取組事項が十分に実施されておらず、現地の活動に対する支援体制が整っていない。
- 地元団体の活動により生育環境や株数が維持できている場所もあるが、全県的に状況は悪化。

5 専門委員会による保護回復事業計画の継続に関する判定と意見

(1) 計画継続に関する判定：計画継続（部分的な修正を含む）

(2) 付帯意見（概要）：

ア 現地の保護活動の支援につながる、取組③（情報収集とモニタリング）、④（管理手法の作成）、⑤（保護活動団体のネットワーク化）を効果的に進める工夫が必要。

イ 専門小委員会の意見（各地の活動体制強化につながる支援、被害発生時の原因特定と対策、里山の環境全体を保全する共通認識での活動促進）に今後対応されたい。